

平成二二年度常設特集展示 「生誕二〇〇年記念 帆足杏雨展」

出品作品の題詩等解説

野田菜生子

「生誕二〇〇年記念 帆足杏雨展」は、常設展の特集展示として開催し、とくに図録は作成しなかった。本年度は、それを補う作業の一つとして、出品作品の題詩、印章などの釈文を整理した。

なお、釈文の表記の仕方は以下のとおりとした。

- 一、漢字は新字体を使用した。また文意をこわさない範囲で常用漢字をはじめとする一般的な漢字を用いた。
- 二、判読不能な字は□で示した。判読不確定の場合は、その文字を□で囲んだ。
- 三、また、釈文は、題詩については漢詩文の形式に改め、年記、落款、印章なども、本稿の形式にあうように記載した。

一、清溪書屋図 一八二九(文政一二) 紙本墨画淡彩 一〇九・二×三八・五

己丑夏月写於大阪府寓処 杏雨邨民

『帆遠』『杏雨村莊』『半癡半點』

二、臥龍梅図 一八三〇(天保一) 紙本墨画淡彩 五九・二×一二〇・七

誰攘孤山奇絶種	移之日本鎮西郊	衝霜先擅花魁称	尽受群芳面罽降
本是菅公階下樹	林仙若識為顛狂	一枝一葢猶遺愛	作庶呼成是甘棠
青帝宮中一笑顰	氷為肌骨雪為唇	以恹李白桃紅妬	囊内未春先占春
路伴老樵行且話	梅花故事実作怪	入邨先認両蟠龍	身在春風香世界
飛香惟裡小乾坤	庚嶺仙人斯托瑰	煙笠思詩紙黒立	斜風細雨暗山邨
眠断笛声悲遠岑	雪肌香骨渺雞尋	狂枝斜桂穹々月	宛是道郎夢後心
狂風飛雪暮邨寒	鉄幹鏤瓊十畝蟠	桃李從來是奴僕	不容白眼等閑看
庚寅春二月画菅公廟両梅樹併録七絶七篇	杏雨邨民		

『杏雨村莊』

『遠書画印』

三、四時花鳥図卷 一八三〇(天保二) 紙本墨画淡彩 一八・三×一四八・〇

春王正月梅枝其英於／幹集百卉争先遂奪其／魁

蕙蘭至幽谷

月季放其花自正月至於冬月

鴻雁復歸於北

二月条遷其苗於畦

桃李棠杏楊柳會於囿

蜂王使衆蜂來復入其郭

烏衣國使其子弟遊於杏林

三月花王牡丹即位於浴時遊於姚氏

金蓮宝桐薔薇及十姊妹豐於籬

鈔蝶鈔口黃蝶來聘饗之

金衣公子歷聘於柳

封氏十八姉來代豈子救之

鼈靈逐其君杜宇

夏四月柳絮大去其國

竹逐其籜於外

花隕如雨靡草死

五月閑人與人使建蘭茉莉來聘

鸚(谷十鳥)來或剪其舌

石榴口不成災

楚美人虞氏孫於野

李子生王戎侵其族

蘭又居於堂

六月芰荷及蒲蓼會於池

有蟲食木葉

秋七月桐使葉墜於地

甘露降於蕉

蒼鷹伐鳥獲之

八月榴逐其子於外

九月菊放其英於東籬遂

入居於堂霜及百卉戰於囿殺之菊全師而歸

葵朝於日

伐茱萸以其英歸

冬十月蘭及茉莉入於温室

十一月柑子橘子来朝

十二月秣陵人使水仙聘於列国

女史許飛雲□径作于宣尼月令成于昌氏其筆削次第皆具旋乾轉坤之手茲乃取其凡例移而品題花鳥和神当春清節為秋蓋尺幅之中四時之氣已備 庚寅小春望前三日写於山風淡月楼 杏雨邨民遠

『遠印·西鄙人』『杏雨布衣』

四、寒月照梅図 一八三一(天保二) 紙本墨画淡彩 三七・五×四七・二

『杏雨村莊』

衢州何処門花光 抹月批風只欠番 安得江南腸斷句 為題風雨浣啼粧  
高髮長蛾滿漢客 君主図上按春風 韻沙万里五家女 不着黄金買画工 杏雨逸民  
『帆遠』『致大』

五、秋晴晚歩図 一八三二(天保三) 紙本墨画淡彩 五〇・〇×四一・四

『杏華春雨』

茅茨掩映水雲郷 雨霑蘆花滿路香 最是輕寒可人節 詩節更添幾多忙  
晚来負手踏秋牆 一逕林疎夕照明 隅水定知詩人宅 黄昏早上讀書檠  
壬辰孟蘭盆節画併題為後藤雅契清鑑 杏雨邨民  
『致大』

六、梅溪曉艤図 一八三四(天保五) 紙本墨画淡彩 一五八・五×四五・〇

山僧昨約共尋梅 相簡報言花正開 一片欠爪追曉艤 斜衡風雨泝溪来  
甲午上元後三日写併題 杏雨邨民  
『太平幸民』

七、淺絳山水図 一八三五(天保六) 絹本墨画淡彩 一二三・〇×五〇・五

江霧閣山々若浮 霏微春雨暮殊稠  
渡頭新漲添三尺 人与犇牛共一舟  
乙未花朝前三日 擬六如居士筆意併題一絶於長門客次 杏雨邨桑者遠  
『致大』『杏雨村莊』

『白沙翠竹邨農』

八、雪溪待鶴圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・三×五二・二

雲晴古木月初昇 雪滿閒庭鶴未歸

歲在丙申清和月 杏雨邨桑者

『帆遠之章』『聽秋』

『杏華春雨』

九、芙蓉圖 一八三六(天保七) 紙本墨画着色 一〇七・五×五二・五

『片帆(火十厘)水』

不漁万紅論殿最 要当九夏独妖□

丙申麦夏写杏雨邨民

『帆遠之章』『致大』『聽秋』

『白沙翠竹邨農』

一〇、淡彩山水圖 一八三七(天保八) 紙本墨画淡彩 一三九・八×三七・四

碧梧清暑 丁酉嘉平月下浣画 杏雨

『帆足遠』『聽秋道人』

『七石灘釣者』

一一、秋水野航圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・三×五二・〇

秋水纔深四五尺 野航恰愛兩三人 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『天下名山是我師』

一二、松陰自適圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・三×五二・〇

間看秋水心無事 坐对寒松手自栽 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『天下名山是我師』

一三、雪溪吟鞭圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・〇×五一・七

匹馬東來冰雪天 蒼山手冷墮吟鞭 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『天下名山是我師』

一四、巴峽蜀船圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・一×五一・七

巴人淚宖猿声落 蜀客船從鳥道廻 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『天下名山是我師』

一五、風雨赴約圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四三・一×五一・七

昨招燈前魚有釣 不辭風雨渡江來 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『杏華春雨』

一六、夏山烟雨圖 一八三六(天保七) 紙本墨画淡彩 一四二・九×五二・〇

舍下煙蘿通古寺 湖中雲雨到前軒 杏雨

『帆遠之章』『聽秋』

『杏華春雨』

一七、福壽草圖 一八三九(天保一〇)頃 紙本墨画淡彩 一一九・三×三九・一

春雨滿郊昼亦冥 衝泥來叩小柴扃

倚欄不恠唵情熱 昨夜池塘入夢青

早春雨日池塘春草堂主人招飲席上写所置盆卉并錄小詩博主人一笑 杏雨

『帆遠之章』『天下名山是我師』

『杏雨』

一八、花塘細鱗圖 一八四〇(天保一一) 絹本墨画淡彩 一一一・八×四二・二

庚子清和月写於白沙翠竹邨舍 杏雨帆遠

『無機子・致大』  
『七石灘釣者』

一九、設色花鳥図 一八四一(天保一二) 絹本墨画着色 一一五・八×三五・五

辛丑猶清和月写 杏雨

『無機子・致大』  
『家在杏華春雨邨』

二〇、松下納涼図 一八四二(天保一三) 絹本墨画淡彩 一四二・〇×五六・四  
家君八十誕辰 帆足遠  
『無機子・致大』

二一、竹外一枝図 一八四二(天保一三) 紙本墨画淡彩 一〇九・二×一一〇・〇

竹外一枝斜

壬寅歲除前四日画併録坡公句 聽秋学人遠  
『帆遠之章』『聽秋』『不可無一』  
『杏華春雨』

二二、風雨渡航図 一八四五(弘化二) 紙本墨画淡彩 一四七・八×四〇・五

弘化二年歲在乙巳清和月写於聽秋閣 杏雨帆足遠  
『無機子・致大』『不可無一』

二三、秋声賦及賦意図 (画)一八四七(弘化四)・(書)一八四四(弘化二)  
絹本墨書・絹本墨画淡彩 各一三六・〇×四三・〇

歐陽公秋声賦意

丁未清和月下浣写於白沙翠竹邨舍杏雨遠  
『無機子・致大』『不可無一』  
『間臨筆墨図丘壑』

二四、老圃秋容図 一八四八(嘉永一) 絹本墨画着色 一五四・八×五七・二

老圃秋容

戊申重陽後二日製於聴秋閣 杏雨遠

『帆遠・号杏雨』

二五、南山松柏図 一八五一(嘉永四) 絹本墨画淡彩 一三〇・二×五〇・四

歳在辛亥秋日写奉寿醉古老翁七十誕辰 杏雨帆足遠

『帆遠・号杏雨』

『間臨筆墨図丘壑』

二六、山陰雪霽図 一八五一(嘉永四) 絹本墨画淡彩 一三九・五×三六・九

『天顔有喜近臣知』

辛亥小春写杏雨邨民遠

『帆遠・号杏雨』

『間臨筆墨図丘壑』

二七、風雨渡江図 一八五二(嘉永五) 絹本墨画淡彩 一二二・六×五七・一

壬子南至後三日写 杏雨遠

『無機子・致大』

『学而不厭』

二八、蜀棧道図 一八五二(嘉永五) 紙本墨画淡彩 一二二・九×一三九・四

壬子孟秋写於白沙翠竹邨舍 杏雨帆足遠

『不可無一』『聴秋』

『七石灘釣者』

二九、巖上弹琴図 一八五三(嘉永六) 絹本墨画淡彩 一五四・九×五七・二

『杏雨布衣』

爽頼落吾耳 洋峨絃上分

子期逝邈矣 此曲有誰聞  
歲次癸丑清和月倣六如居士筆意併題小詩 杏雨邨民  
『帆足遠』『聽秋道人』  
『学而不厭』

三〇、李青蓮詩意山水圖 一八五四(嘉永七) 絹本墨画淡彩 一五四・八×五七・二

桃花流水杳然去 別有天地非人間  
嘉永甲寅桂月下浣杏雨遠  
『聽秋』『鶴貌鷗心』  
『七石灘釣者』

三一、江邨雨霽圖 一八五四(安政二) 絹本墨画着色 一五四・八×五七・二

江邨雨霽  
歲在甲寅春二月写於白沙翠竹邨舍 杏雨  
『帆遠・号杏雨』  
『学而不厭』

三二、月下舟遊圖 一八五四(安政二) 絹本墨画着色 一五四・八×五七・二

烈火燒天萬艦空 英雄今見有何功  
争如明月孤舟客 二賦長伝千載中  
歲次甲寅秋日写併題 杏雨邨民遠  
『無機子・致大』  
『七石灘釣者』

三三、綠陰煎茶圖 一八五五(安政二) 絹本墨画淡彩 一八二・五×五二・〇

班荆好迎客 山處日亦長 身□□仙骨 淡不下羲皇  
送響雲泉杳 盈陰夏木涼 奚僮報茶熟 一啜滌中腸  
乙卯清和月望後二日杏雨邨桑者遠  
『帆遠・号杏雨』  
『七石灘釣者』



三四、岩下深藻遊鯉圖 一八五八(安政五) 絹本着色 一四〇・八×五一・五

安政戊午孟夏於碧梧翠竹山房之南窓 杏雨邨桑者遠

『帆遠・号杏雨』『鶴貌鷗心』

『七石灘釣者』

三五、紅桃牡丹圖 一八五八(安政五) 絹本淡彩 各六一・七×六〇・二

(牡丹)

『学而不厭』

若教解語忘傾国 任是無情亦動人

擬白山山人賦色併錄唐句 聽秋道人

『鶴貌鷗心』『帆遠之印』

(紅桃)

『天顏有喜近臣知』

四面群飛倚晚風 飛華紛墜酒杯中 坐來殊引落霞色 未醉人韻亦帶紅

歲在戊申小春写併題旧作 杏雨遠

『鶴貌鷗心』『帆遠之韻』

『杏華春雨』

三六、秋山歸鶴圖 一八六〇(万延二) 絹本墨画淡彩 一四二・〇×五一・九

『天下名山是我師』

巖戸無人昼亦閑 午牀睡起寂秋山 階庭松闥天将夕 隔間一声野鶴還

擬文衝山画法 杏雨遠

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『杏華春雨』

三七、梧陰清賞圖 一八六〇(万延二)頃 絹本墨画淡彩 一五九・六×七二・八

『天下名山是我師』

客到瓦鐺茶始番 碧梧桐庭好連林 問論不下羲皇後 滿地清陰語々涼

仿唐解元筆意 杏雨邨桑者遠

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『七石灘釣者』

三八、水邊看雲圖 一八六一(文久二) 紙本墨画淡彩 一四四・一×七七・三

行到水窮處 坐看雲起時

杏雨遠併錄唐句

『間中日月長』『帆遠之印』

『七石灘釣者』

三九、碧梧秋風圖 一八六一(文久二) 紙本墨画淡彩 一四四・一×七七・三

秋色老梧桐

歲在辛酉夏日写於白沙翠竹邨舍 杏雨邨桑者遠

『帆遠之印』『杏雨詩画』『鶴貌鷗心』

四〇、前後赤壁賦圖 一八六二(文久二) 絹本墨画淡彩 各一三六・八×三二・二

(前)

蘇文忠赤壁前遊賦意 杏雨邨桑者遠

『別號鷗邨』『帆遠之印』

『間臨筆墨圖丘壑』

(後)

赤壁後遊圖

歲在壬戌孟秋下浣杏雨遠

『別號鷗邨』『帆遠之印』

『間臨筆墨圖丘壑』

四一、溪山春雲圖 一八六四(元治二) 絹本墨画淡彩 一五三・七×五二・三

『耕釣餘業』

紅紫昨朝夢已回 遊娛今日念已灰 風徐燕子試舒翅 烟暖竹綠差脱胎

春色終收好詩去 微陰復釀暗愁來 合將何計銷長夏 数卷圖書是睡媒

歲在甲子冬十月望後三日写併題 幽居四時雜詠三首之一 杏雨邨桑者遠

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『家在杏華春雨邨』

四二、峻巖飛泉・霜林晚靄圖 一八六四(元治一) 絹本墨画淡彩 各一七三×五二

(峻巖飛泉図)

『耕釣餘業』

澗静魚眠昼猶熟 山寒鶯舌夏初調

擬梅花道人画法 杏雨邨桑者遠

『帆遠・杏雨』『別號鷗邨』

『間臨筆墨図丘壑』

(霜林晚靄図)

『耕釣餘業』

晚風声怒雪中瀑 夕照色粧霜後山

歲在甲子春尽前二日仿黃大癡筆意併題

豊後杏雨邨桑者遠

『帆遠・杏雨』『別號鷗邨』

『間臨筆墨図丘壑』

四三、松竹梅白鶴図 一八六五(慶応一) 絹本墨画淡彩 各一二〇・六×四二・三

(右)

乙丑猶清和月半農生遠

『帆遠之印』

(左)

写於擅勝閣半農

『帆遠之印』

四四、菜根図 一八六五(慶応一) 各七三・五×二七・四 紙本墨画淡彩

(水仙)

『杏雨布衣』

凌波儂子生羅韞 天上輕盈步微月

是誰招得斷腸魂 種作寒花寄秋一絕

乙丑冬十月望前二日写併錄於白沙翠竹邨舍 半農生遠

『無機子·致大』

『家在杏華春雨邨』

(筍)

『杏雨布衣』

節屬梅天吟雜喧 欲晴攸雨昼偏昏 林深不先鳥啼處 池響時生魚躍痕  
禪意參來閑有味 樂情相管對無言 僧厨愛此清供足 竹筍櫻桃具上盟  
半農生遠画併題旧作

『無機子·致大』

『家在杏華春雨邨』

(蓮根)

『杏雨布衣』

平生冰雪姿七星羅 心独豈等絲毫上裨 天子聰而不自薦達 故為乎泥中沈痾正  
無賴安得君從容 其子亦可憐風味如乃翁 無 半農生遠画併錄

『無機子·致大』

『家在杏華春雨邨』

(石榴)

『杏雨布衣』

曉雨浥開紅豆粒 薰風吹破絳沙囊  
半農生遠

『無機子·致大』

『家在杏華春雨邨』

(蜜柑、柿)

『杏雨布衣』

西狩又東狩 仄溪臨澗長 飽霜楓柳赤 透日橘柚黃  
一水斜通路 數家別作鄉 知煩新稻熟 裊々午烟颺  
登靈山途中石川溪口占 半農

『無機子·致大』

『家在杏華春雨邨』

(椎茸)

『杏雨布衣』

采々不知日欲斜 歷丘尋壑谷貧多  
回看同侶行差遠 隔雲呼鷹獲奈何 隔侶澗 采蕈七種之一 杏雨遠併題  
『無機子·致大』 白文方印) 『耕釣餘業』  
『家在杏華春雨邨』

四五、山水圖 一八六六(慶応二) 紙本墨画淡彩 各一四四・二×四九・八

① (夏景山水図)

烟柳風蒲綠蔭門 水雲深処別乾坤  
他年遂我帰田志 銷夏來投是此邨  
仿張元春 杏雨遠

『帆遠・杏雨』

『杏華春雨』

② (秋景山水図)

『天下名山是我師』  
樹着霜紅留落露 竹愛寒碧漾晴沙  
溪頭有哭試相問 莫是瀼西老杜家  
仿黃大癡画法併題 杏雨遠

『杏雨詩画』『帆遠之印』

③ (寒林山水図)

『耕釣餘業』  
沙湾転處一橋低 枯樹敗葦路欲迷  
収釣晚來人不見 扁舟杙在石磯西  
慶応紀元歲在乙丑夏六月上浣仿倪高士筆意併題

『帆遠・杏雨』

『杏華春雨』

④ (風雨渡江図)

『耕釣餘業』  
雲発空江欲渡難 篷窓嘗尽幾辛酸  
今春帰臥故山下 如此風波画裏看

曾觀明人一本偶仿其画体併題一絶 杏雨遠

『帆遠・杏雨』

『杏華春雨』

⑤ (秋景独舟図)

『耕釣餘業』

杙舟綠陰底 蓬障昼生雲 水氣和空翠 不着暑氛点

擬梅花道人杏雨生

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『七石灘釣者』

⑥ (夏景山水図)

『天下名山是我師』

層々暖翠浮嵐 陰々柴門竹屋

留裏有朋趁約 恰逢香煖茶熟

仿米元暉筆意併題

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『七石灘釣者』

四六、四季山水図 明治二(一八六九) 紙本墨画淡彩 一七一・七×九五・六

(春)

『天下名山是我師』

読易林丘深掩関 白雲紅樹隔人寰

溪流不似吾逃跡 何事潺湲濺出山

半農道人遠併題

『鶴貌鷗心』『帆遠之印』『半農』

『七石灘釣者』

(夏)

『天下名山是我師』

陰崖古木繞巖廊 散帙溪画愛日長

好是銷間且銷夏 書声亦和水声涼

擬沈啓南筆意併題杏雨遠

『飄足遠印信』『半農』

『七石灘釣者』

(秋)

『天下名山是我師』

篷窓結嫁亦通婚 泛宅浮家聚作邨

劉氏爭能來為色 萬花堆裏別乾坤

歲次己巳冬十月下澣作於白沙翠竹邨舍 杏雨帆足遠

『鶴貌鷗心』『帆遠之印』『半農』

『七石灘釣者』

(冬)

『天下名山是我師』

溪頭迎客共看山 斜照秋寒號石泉

紅樹白雲好吟斜 一併呈在南翁前

歲在己巳南至後二日併題 杏雨遠

『帆遠之印』『半農』

『七石灘釣者』

四七、前後赤壁圖 一八七二(明治五)

紙本墨面淡彩 各一九四・〇×六〇・九

(前)

『天下名山是我師』

用之不竭取何妨 山月江風無盡藏

爭國英雄定相羨 輕舟隨意泝流光

赤壁前游圖 杏雨帆足遠

『帆遠之印』『半農』

『杏華春雨』

(後)

『天下名山是我師』

謀酒網漁夕再過 江上亡水落石嗟峨

急霜林脫吹瞻濶 月色多於前度多

明治壬申秋八月作坡翁赤壁後遊圖併題一絕 杏雨邨桑者遠

『帆遠之印』『半農』

『杏華春雨』

四八、松竹梅図 一八七三(明治六) 紙本墨画 各一〇八・七×六〇・三

(松)

『天下名山是我師』

遅々澗畔松 鬱々舍晚翠

癸酉春尽前三日醉作於一宿庵 半農道人

『帆遠之印』『半農』

『七石灘釣者』

(梅竹)

『天下名山是我師』

倉庚鳴起促耕時 省過窓探山水奇

一路荒郊梅未落 半思民苦半思詩

森下県令探梅南邨枚駕草堂賦意 半農道人

『帆遠之印』『半農』

『七石灘釣者』

四九、達磨図 一八七六(明治九) 紙本墨画 一三八・四×四〇・四

『天下名山是我師』

単伝直指大道如砥 觀勸欲得句涉多岐

丙子復月下澣拝画併題 帆遠

『帆遠之印』『致大氏』

『七石灘釣者』

五〇、晚渡帰農図 一八七七(明治一〇) 紙本墨画淡彩 一三四・八×四七・〇

『耕釣餘業』

墟落炊烟映水流 綾場□々彩将収

沙頭争渡晚来鬧 人与帰牛共一舟

半農生遠併題

『遠印・西鄙人』『杏雨詩画』

『七石灘釣者』



五一、風渡林月図 一八七七(明治一〇) 紙本墨画淡彩 各一三四・八×四七・〇

『耕釣餘業』

風度林間月始生 紙窓明奪讀書檠

園禽半夜栖難定 落雪驚梢屢屢有声

丁丑清和月 杏雨遠

『遠印・西鄙人』『杏雨詩画』

『七石灘釣者』

五二、紅葉菊図 一八八二(明治一五) 紙本墨画淡彩 各九六・七×二五・三

(紅葉)

『天下名山是我師』

解瓢野占席 霜霽暖如烘 乘興且連酌 得詩何覓工

殘陽楓供色 醉臉夕深紅 不恨為牛後 下山從牧童

同諸子小春遊冬田山賦之 杏雨詩画

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『間中日月長』

(菊図)

『天下名山是我師』

病後強酬重九辰 枝節試登岳雲端

咲我貧生猶忘老 折得茱萸子細看

歲在辛巳夏四月写併題 重陽冬白瀧岳旧詩 杏雨遠人

『杏雨詩画』『帆遠之印』

『間中日月長』

五三、富嶽瑞雲図 一八八二(明治一四) 紙本墨画淡彩 一七四・七×七七・四

※平野五岳の賛文有り

(杏雨)

『天下名山是我師』

萬尋岳雪逼朝陽 忽紫忽紅頻變光

層麓山河茫未曙 三峰倒陰大東洋

明治十四年春二月上澣写併題 七十二叟杏雨帆足遠

『帆遠私印』『致大氏』  
『七石灘釣者』

(平野五岳)

『知雨』

日出処山日没処山	芙蓉崑崙伯仲間
自余群山皆雌伏	泰華嵩衡豈抗顏
我忽生翼一擊揚	風斯在下迹
須臾飛上芙蓉頂	天關咫尺仰玉皇
脚踏三峰睨八紘	心与宇宙同洪荒
東望靺鞨北朝鮮	支那印度天西邊
南溟渺茫無際涯	蠻虜信絕水拍天
脚根平布州六十	俯視山河与城邑
如今海東正文明	詞林往々出俊英
鼓旗相分幾壇場	恰似中原逐鹿情
畢竟不出蜻蜒裏	何異蝸牛角上争
唯須如日出処山	向日没処競崢嶸
大笑一聲天風迅	吹落我夢五千仞

岳

『岳字五岳』『古竹園主』